

国語 第5学年 新聞を読もう 検討会の想定問答

指摘 1: この単元で身に付けることは何か。

返し: 新聞の記事と図表を読む目的に合わせて関連付け、必要な事実を取り出す。見出しの言葉と本文の条件を照合する。C(1)ウの学習として、読む目的、本文と図表で確かめた事実、出典・時点、そこから考えたこと。

指摘 2: 何をもって学習できたと判断するか。

返し: おおむね満足できる状況は、目的に応じて文章と図表を結び付け、必要な情報を見付けているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)ウの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3: 活動が楽しいだけで終わらないか。

返し: 読む目的、本文と図表で確かめた事実、出典・時点、そこから考えたことを残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)ウに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4: つまづく児童にはどんな支援をするか。

返し: 記事を全部写す、単位や対象を無視してグラフだけ読む。これに対して、教師が利用条件を確認した記事を選ぶ。目的、見出し、本文の事実、図表の条件を別欄にし、必要な情報に線を引いて自分の言葉で短くまとめる。〔知識及び技能〕(2)アとC(1)ウを切り離さず扱う。

指摘 5: 考えが違ったときはどう扱うか。

返し: 教師の結論を選ばせず、「知りたいことは、記事と図表のどこを合わせると確かめられますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)ウに関わる根拠を話し合う。

指摘 6: 本時の評価で態度まで決められるか。

返し: 本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7: 端末がない学級でもできるか。

返し: 読む目的、本文と図表で確かめた事実、出典・時点、そこから考えたことは紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)ウの評価の代わりにしない。

指摘 8: 時間が足りないとき、どこを残すか。

返し: 総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)ウで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9: この教材で、誤りやすい点をどう確かめるか。

返し: 記事を全部写す、単位や対象を無視してグラフだけ読む。教師が利用条件を確認した記事を選ぶ。目的、見出し、本文の事実、図表の条件を別欄にし、必要な情報に線を引いて自分の言葉で短くまとめる。

指摘 10: 振り返りを感想だけにしないためには。

返し: 「知りたいことは、記事と図表のどこを合わせると確かめられますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)ウに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

